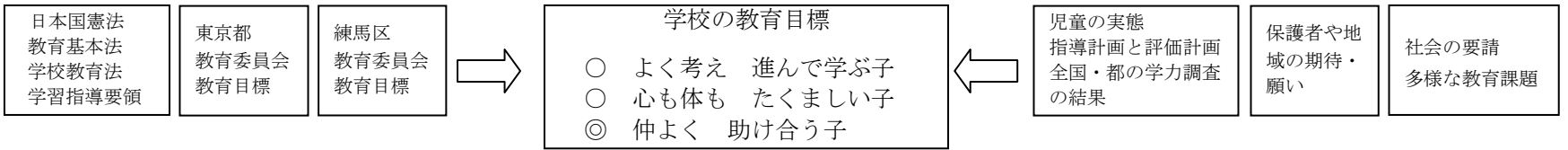


学力向上を図るための全体計画



学校経営方針（学力向上に関わる要点）

- 言語活動を大切に「分かる・できる授業」による基礎基本の定着
- 「主体的、対話的で深い学び」を取り入れた授業改善
 - ・ 問題解決的な学習を基に、自ら課題を発見し解決しようとする態度を育成する。
 - ・ 児童の学習への意欲や思考力や判断力、表現力を育成するため、計画的な指導を行う。
- 読書の習慣化と読書活動の充実（区立南田中図書館を利用し、活字に親しむ児童の育成に努める。）
- 個に応じた指導の工夫（地域未来塾の実施。学校生活支援員の効果的な活用。）
- 幼保小連携教育・小中一貫教育の推進（学びの連続性に向け、カリキュラムや指導法を改善しながら、円滑な接続を図る）

各教科の指導の重点

- ・ 基礎的・基本的な内容の習得、反復
- ・ 習熟度別指導の推進、東京ベシック・ドリル診断シートの活用
- ・ 課題発見と課題設定の工夫
- ・ 意欲を引き出す過程の重視
- ・ 互いに認め合い、学び合う場の設定
- ・ 多面的に物事を考える場や自分の考えを発表する場の設定
- ・ 体験的な学習や問題解決的な学習の推進
- ・ 補充的・発展的な指導の充実
- ・ よさや可能性を伸ばす評価の工夫

総合的な学習の時間の指導の重点

- ・ 実社会や実生活との関わりを重視した探究的な活動の推進
- ・ 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考える活動の展開
- ・ 学び方やものの考え方を身に付ける活動の推進
- ・ 各教科等との関連による深化
- ・ 自ら学ぶことの習慣化

外国語活動における指導の重点

- ・ 言語や文化に対する理解を深め積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
- ・ 学ぶ意欲や意義を高め、外国語に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の向上

南田中小学校における育成すべき資質・能力の育成

どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るのかを考えることができるようにする。

- 自律的活動力
- 人間関係構築力
- 社会参画力

どのように学ぶか
(アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善)

学習評価・カリキュラムマネジメントの充実

知っていること、できることをどう使うか (思考力・判断力・表現力等) を明確にする。

- 基本的な生活能力 「基本的な生活習慣」
- 基礎・基本 「学習習慣など」

【学力向上を図るための基本方針】

- 「自分の思いや考えをもち、表現できる子」の校内研究主題と、「基礎学力の定着」「相手に分かりやすく説明すること」「多様な考えを出すこと」を重視し、学習者が主体的・対話的で深い学びから授業改善に努める。また、各教科・領域にて言語活動をより充実させ、思考力・判断力・表現力等を始めとした資質能力の育成を図る。
- 区立南田中図書館を活用する計画を見直し、並行読書等の推進、読書の質や読書量を向上させるなど、読書習慣および読書活動の充実を図る。
- 小中一貫教育では、教科部会ごとに小中9年間を見通した系統的な指導を意識した授業改善を図る。
- 「みんなでみんなをそだてる」を合言葉に、家庭や関係機関との連携を図り、基本的な生活習慣・学習習慣の定着を図る。

道徳教育の指導の重点

- ・ 人権を尊重する態度の育成
- ・ 考えを議論する道徳への転換
- ・ 多面的・多角的に考える問題意識をもって話し合う学習の推進
- ・ 自己の生き方や他者との関わりについて考えを深め、道徳的判断力、道徳的心情や道徳的実践意欲と態度の育成
- ・ 各教科との関連性を明確にした指導計画に基づいた補充・深化・統合

特別活動の指導の重点

- ・ 心身の調和のとれた発達と個性の伸長
- ・ 集団の一員としての自覚と望ましい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度の育成（特別支援学級との交流を含む）
- ・ 活動目標をつくり、その達成方法を話し合って役割分担するなど自己を生かす能力や合意形成能力の育成

生活指導における指導の重点

- ・ 基本的な生活習慣の定着
- ・ 学校いじめ対策基本方針に基づくいじめの未然防止・丁寧な対応
- ・ 教育相談の充実
- ・ 安全教育の充実
- ・ SNS 南田中ルールの活用・更新

キャリア教育における指導の重点

- ・ 自己および他者に積極的に関わろうとする子供の育成
- ・ 夢や希望、憧れる自己イメージを描き、努力する態度の育成
- ・ 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の育成

| 本校の授業改善に向けた視点 | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|
| 指導内容・指導方法の工夫 | 教育課程編成上の工夫 | 校内における研究や研修の工夫 | 評価活動の工夫 | 家庭や地域社会との連携の工夫 | 小中一貫教育の視点 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的、対話的で深い学びの視点から授業改善に努める。 ・ 第3学年以上の算数は、4グループによる習熟度別学習を展開し、個に応じた指導を工夫する。 ・ 夏休み教室や放課後学習、本年度に開講した未来塾等を活用し、基礎学力の定着を図る。 ・ 実物投影機やプロジェクター等のICT機器を活用した授業改善に努める。 ・ 授業におけるユニバーサルデザインを意識し、個に応じた指導を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 他教科や行事等との関連を考えながら、年間指導計画を立て、効果的に学習できるように配慮する。 ・ 特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習を計画的に行い、障害理解の啓発を図る。 ・ 南田中図書館との連携を通して読書活動を充実させたり情報処理能力の育成を図ったりする。 ・ 調理師等とのランチルーム給食を通して食のマナーを学ばせる。 ・ 体力調査結果及び体力向上推進プランを活用して、日常の体育授業の改善を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「基礎学力の定着」「相手に分かりやすく説明すること」「多様な考えを出すこと」を重視した授業づくりに取り組む。 ・ 人事考課制度の授業観察を活用して、互いに授業を見合い、授業力の向上に努める。 ・ 日常的に授業を公開するとともに、教員相互の授業参観を実施する。 ・ 生活指導に関する研修会や外国語活動指導研修会を行い、児童理解や指導法向上に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育活動をPDCAサイクルで常に評価・点検し、改善策を検討する。 ・ 各教科・領域の指導計画や評価計画を見直し、適正かつ信頼ある評価につなげていく。 ・ 学校公開等の保護者アンケートの結果を次の取組に反映させる。 ・ 学校関係者評価の課題を明らかにし、次年度の教育活動に反映させる。 ・ 全教員による自己評価の結果を基に改善を重ね、共通理解を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 土曜授業を公開し、保護者が参観しやすい体制を整える。 ・ 地域住民等で組織される周年行事実行委員会と連携して50周年行事を実施していく。 ・ 地域の人材と連携・協働した教育活動を推進する体制づくりを進め、教育課程の中で効果的に行えるようにしていく。 ・ 幼保小スタートカリキュラムを実践し、交流活動等を通して、互惠性のある連携が実現できるよう努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中一貫教育では学びの連続性を踏まえた各教科の授業研究を行い、互いに見合うことで授業改善を図る。 |